主な内容

- 就任のご挨拶
- 臨床免疫センターのご紹介

Iwate Medical University Hospital News

地域医療連携だより

2024年 10月号

岩手医科大学附属病院　内丸メディカルセンター

附属病院副院長就任のご挨拶

医学部 外科学講座 教授　新田　浩幸

2024 年 8 月 1 日付けで岩手医科大学附属病院の副院長を拝命しました。歴史と伝統ある当院において、このような重責を担わせていただくことになり、大変身の引き締まる思いでございます。外科学講座では肝胆膵・移植分野を専門として診療を担当しており、肝胆膵悪性･良性疾患に対する拡大手術、腹腔鏡下手術、化学療法、肝移植（生体・脳死）を行っています。2022 年からは肝切除と膵切除にロボット手術を導入し、以前から積極的に行っている腹腔鏡下肝切除とともにロボット支援下肝切除においても全国でも有数の施設となりました。

附属病院における外科学講座は収益の面でも重要な立ち位置にいることを自負しております。肥満症治療、内分泌、上部消化管、下部消化管、肝胆膵、乳腺、小児と幅広い領域の外科治療をカバーしている大外科であり、手術のみならず化学療法でも多くの件数を行っています。患者ファーストでの診療姿勢に変わりはありませんが、より効率的な診療を行い、経営面でも貢献できればと考えております。

私自身がどこまでやれるか甚だ不安ではございますが、これまでの経験をもとに、より良い医療環境の提供と、患者さんやご家族の皆様に信頼される病院づくりに少しでも貢献していきたいと思います。病院長をはじめ全スタッフと気持ちをともにし、病院全体の発展に寄与していく所存でございますので、皆様のお力添えとご協力をお願い申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

医学部 救急・災害医学講座 教授　眞瀬　智彦

2024 年 8 月 1 日付けで、岩手医科大学附属病院副院長を拝命いたしました眞瀬智彦です。どうぞよろしくお願いいたします。

私は、1987 年本学医学部を卒業し脳神経外科学講座に入局いたしました。本学附属病院、救命救急センター、関連病院等で従事し、2011 年 3 月に発災した東日本大震災において、統括 DMAT として岩手県庁で医療調整を行いました。本学の災害医学講座開設にあたり帰学いたしました。その後、講座が救急･災害医学講座となり、2022 年 4 月には岩手県高度救命救急センター長を拝命いたしました。これまで、救急医療を中心に地域との連携を強化しつつ、岩手県の救急医療の充実に努めて参りました。

岩手県では人口減少、医師不足に伴い、医療機関の役割の見直し・集約化が計画されています。また、高齢化に伴い多くの疾患を持った患者さんが増加している現状において、益々救急医療の重要性が増して来ると考えられます。地域との連携をより密にし、より良い救急医療体制を構築していきたいと思います。

地震、豪雨災害等自然災害が頻発する中、本学附属病院は基幹災害拠点病院、高度救命救急センターであり常に災害に備え、災害時に医療を提供できる体制を強化するとともに、院内の危機管理体制を充実させる事も私に与えられた職責と考えております。

今後も本学附属病院、岩手県高度救命救急センターおよび地域の救急医療のさらなる発展のため微力ではありますが尽力したいと考えておりますので、皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

脳神経外科教授就任のご挨拶

医学部 脳神経外科 教授　**赤松　洋祐**

この度、2024 年 8 月 1 日付けで岩手医科大学脳神経外科講座教授を拝命しました。光野孝雄先生が 1957 年に開講しました本教室は、金谷春之先生に引き継がれ、小川彰先生、さらに小笠原邦昭先生が受け継ぎ今日に至っております。このような伝統のある教室を担当させていただくことになり、身の引き締まる思いです。

私は 1980 年に岩手県岩泉町に生まれ、現在の岩手医科大学附属病院のある矢巾町の隣町であった都南村（現盛岡市）で育ちました。盛岡第一高校では甲子園を目指して野球に明け暮れておりましたが、祖母が脳卒中で他界したのを機に脳の医者になって患者を救いたいと、医師になる決意をいたしました。愛媛大学医学部へ入学し、何も決めずに岩手県立中央病院で初期研修医として勤務しましたが、熱い指導をしてくださった脳神経外科の先輩方に憧れ東北大学脳神経外科教室の門を叩きました。専攻医の時期には一切妥協のない臨床・基礎研究を経験し、自分の全力を出し切ることで得るものは多く、その後リサーチマインドを持ち続けて仕事をする上での礎を築いていただきました。2018 年に小笠原先生からお声をかけていただき、岩手医科大学脳神経外科に勤務させていただくこととなりました。小笠原教室では日々の身近な臨床に研究の種を見つけ、そこから普遍性を見つけて世界的な業績につながっていました。これはひとえに患者を紹介くださるクリニックや基幹病院を含めた同門の先生方の高い医療レベルと意識の高さの賜物だと思っています。

本教室は若い世代に入れ替わりますが各サブスペシャリティーの医師も従実しており、岩手県の最後の砦としての医療を提供するだけでなく、岩手県全域での脳神経外科診療レベルアップと脳卒中診療の均霑化を目指した術者教育も行なって行く所存です。今後とも岩手医科大学脳神経外科教室をよろしくお願いいたします。

患者サポートセンター長就任のご挨拶

医学部 泌尿器科 教授　**小原　航**

８月より患者サポートセンター長に就任しました小原航と申します。日頃より多くの患者様を大学病院にご紹介いただき誠にありがとうございます。

当センターは、附属病院および内丸メディカルセンターに配置されており、事務、看護、ソーシャルワーカー等が多職種連携のもと業務を行っています。具体的には、入退院支援および医療福祉相談による患者・家族支援の推進、各関係施設との地域医療連携の推進を中心に活動しております。特に、地域医療連携に関しては、紹介予約センター対応、セカンドオピニオン受付、地域連携パスの運用、広報誌の発行、懇談会の企画、コールセンター対応（医療機関専用）等を行っております。

４月に地域の医療機関の皆様を対象に患者紹介に関するアンケートを行わせていただきました。紹介予約センター（矢巾附属病院、内丸メディカルセンター、歯科医療センターへの紹介窓口を一本化）の対応について、患者紹介は概ねスムーズに行われている、受診日時確定までの時間が短くなった、といった高い評価をいただきました。一方で、紹介受診後の検査や治療、入院が矢巾か内丸なのか分かりにくいなど、各診療科の診療体制が十分に周知されていないこともご指摘いただきました。様々なご意見を真摯に受けとめ、改善すべき点は迅速に改善し、斬新なアイディアを取り入れて創意工夫し、当センターの活動を推進していきたいと考えております。

地域の先生方が患者様を紹介してよかった、そして、患者様やご家族が受診してよかった、と仰っていただける病院を目指し、当センターの運用を進めてまいりたいと思います。今後とも皆様からの温かいご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

臨床免疫センターのご紹介

● 臨床免疫センターの概要

近年、細胞工学や遺伝子工学の進歩により、これまで原因がよく分からなかった多くの疾患において、その発症機序や細胞レベル、分子レベルで病態が明らかにされてきています。その結果、多くのヒトの病気の原因に免疫異常が関与していることが解明されています。免疫異常が全身に現れる全身性エリテマトーデスに代表される膠原病、免疫異常が消化管に出現する潰瘍性大腸炎やクローン病といった炎症性腸疾患、皮膚に現れるアトピー性皮膚炎や尋常性乾癬といった皮膚疾患、膵臓に現れるⅠ型糖尿病、神経に現れる視神経脊髄炎などの神経疾患まで実に多くの疾患に免疫異常が関わっています（図１）。

そのため、正確な診断・治療を行うためには、診療科毎の縦割りの診療体制ではなく、免疫異常という観点から疾患を捉え「免疫疾患」として各診療科横断的に診断・診療を行う必要があります（図２）。

免疫疾患を診療科横断的に評価し、正確な診断、活動性の評価、治療を行う組織として岩手医科大学附属内丸メディカルセンター内に設立されたのが臨床免疫センターです。

図１

（関節リウマチと関連疾患）
- **関節リウマチ**
- 薬剤副作用症例
- 呼吸器疾患併発症例
- 続発性アミロイドーシス症例
- **リウマチ性多発筋痛症**
- 回帰性リウマチ
- **成人スティル病**
- RS3PE症候群
- **強直性脊椎炎**
- **乾癬性関節炎**
- 反応性関節炎
- SAPHO症候群
- **腸炎関連関節炎**

（膠原病）
- **全身性エリテマトーデス**
- 精神神経SLE
- ループス腸炎
- ループス腹膜炎
- 蛋白漏出性胃腸症
- **全身性強皮症**
- 肺高血圧合併症例
- びまん皮膚硬化型
- **多発性筋炎**
- **皮膚筋炎**
- 急速進行性間質性肺炎
- **混合性結合組織病**
- **シェーグレン症候群**
- **ベーチェット病**
- **抗リン脂質抗体症候群**
- **特発性血小板減少性紫斑病**

（アレルギー疾患）
- **気管支喘息**
- **IgG4関連疾患**
- ミクリクツ病
- 自己免疫性膵炎
- 蜂アナフィラキシー
- **薬剤性アナフィラキシー**
- **食物性アレルギー**
- **薬剤性過敏症症候群**
- **好酸球増多症候群**
- 好酸球性血管性浮腫
- 木村病

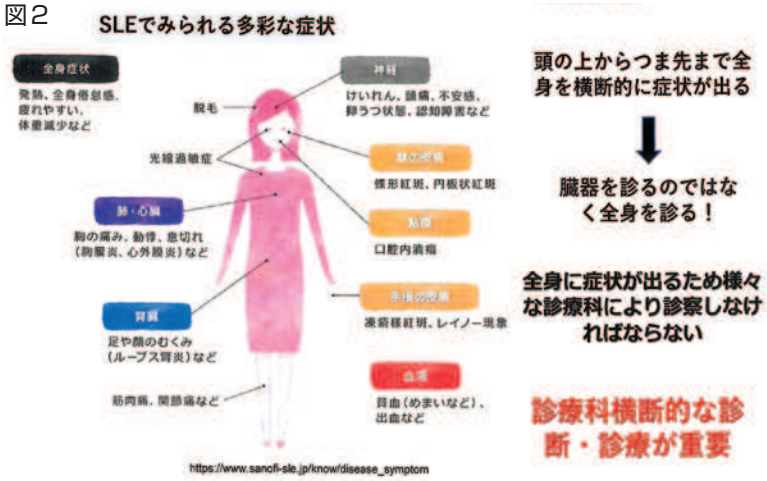
（血管炎症候群）
- **高安動脈炎**
- 巨細胞性動脈炎
- **結節性多発動脈炎**
- **顕微鏡的多発血管炎**
- 多発血管炎性肉芽腫症
- 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症
- IgA血管炎
- リウマトイド血管炎

（免疫不全症）
- 伴性劣性無ガンマグロブリン血症
- IgA欠損症
- 未分類免疫不全症
- 遺伝性血管性浮腫

（その他の免疫疾患）
- 再発性多発軟骨炎
- キャッスルマン氏病
- 肥厚性硬膜炎
- 血栓性血小板減少性紫斑病
- 溶血性貧血
- 後天性血友病
- Sweet病
- 炎症性偽腫瘍
- 不明熱
- 視神経脊椎炎、など

ヒトの疾患の約7割以上が免疫異常に起因する

図２



● 診療体制

外来診療は、内丸メディカルセンターで行っております。現在の診療体制は月・水・金曜日の週３日で外来担当医は免疫疾患に関わる各科より当番制で派遣されておりますが、今後、さらに拡充していく予定です。 ご紹介の際は、当院診療申込書の診療科欄「臨床免疫センター」にチェックをしご紹介下さい。貴院で当センターの診療科を特定されている場合は従来通りのご紹介で構いません。患者さんの待ち時間の負担を減らすため、事前に診療情報提供書を紹介予約センターまで FAX 送信いただきますようお願いいたします。

外部医療機関

紹介先診療科の判断に迷う場合 → **臨床免疫センターへ紹介**

現在はリウマチ・膠原病・アレルギー内科、総合診療科、消化器内科の３科の交代制
※ 15 歳以下は附属病院小児科で担当します

紹介診療科が特定できている場合 → **従来通り各診療科へ紹介**

● 役　割

県内の診療所や病院から関節症状、消化器症状、皮膚症状や不明熱、肺病変や神経障害などの多臓器にわたる症状が混在し、どの診療科に紹介したらよいのか迷う症例をご紹介いただくことも臨床免疫センターの役割でもあります。

例えば、岩手県のような高齢化率の高い県において、高齢者に多く認められる ANCA 関連血管炎などは、比較的頻度の高い疾患の１つであります（図３）。この ANCA 関連血管炎は、不明熱の鑑別となる代表的疾患でもあり、間質性肺炎、腎炎、末梢神経障害、紫斑などを合併する頻度が高く、これまで呼吸器内科、腎臓内科、神経内科、皮膚科など紹介先の各科で検査から診断、治療まで完結してしまうことが多かったのですが、各臓器障害を一個体に生じた一元的な免疫疾患の症状として、それぞれの専門家が緊密に連携して診断から治療、活動性の評価まで行えることが臨床免疫センターの強みであります。これにより、複雑な免疫疾患のより正確に診断、治療、疾患活動性の評価などが行えます。

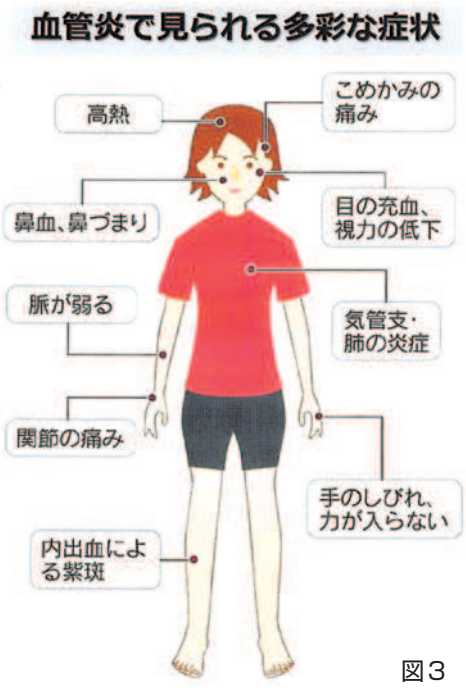
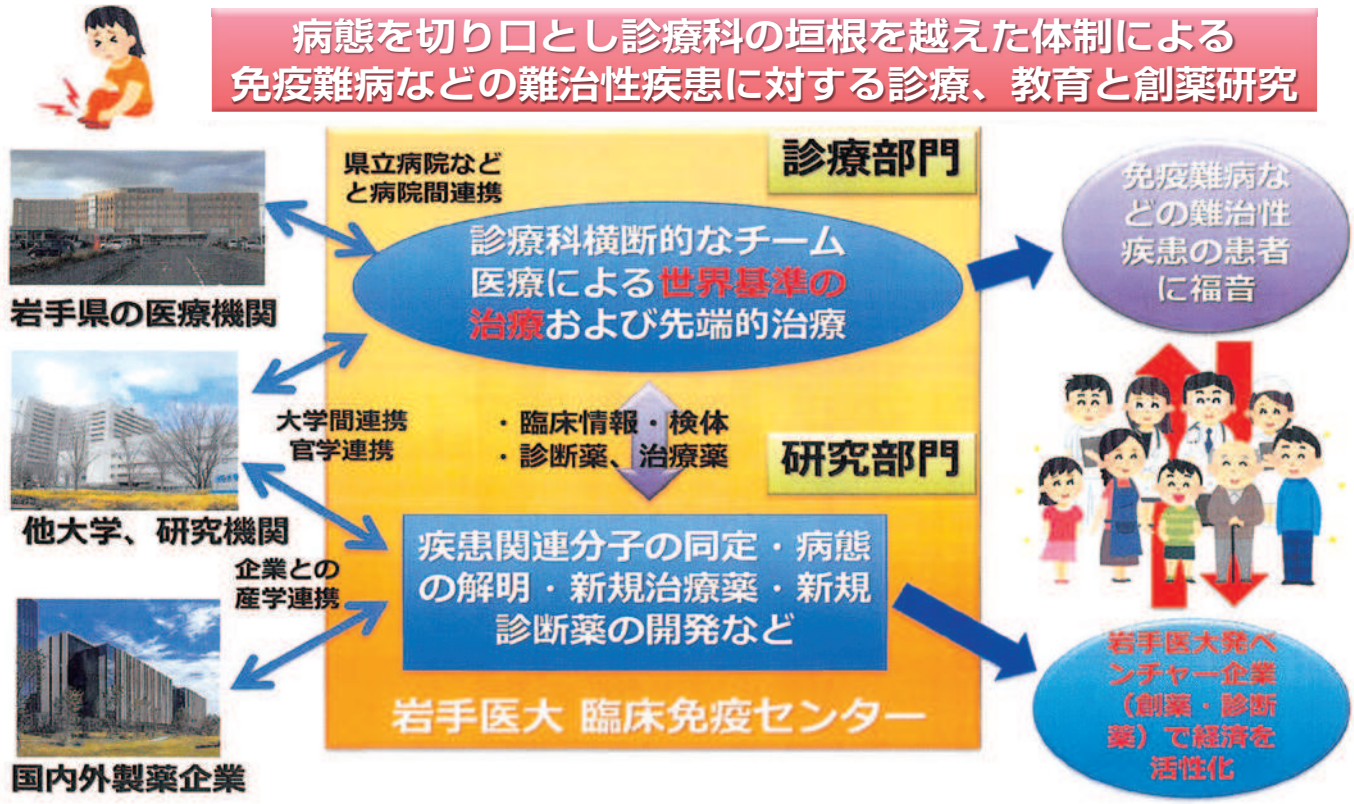


図３

● 最後に

臨床免疫センターは、全身性の疾患である免疫疾患の医療に今後必要なセンターであると考えられます。また、上記のような症例では外来だけでの検査は時間がかかってしまい、治療も強い免疫抑制療法を要することが多いことから外来では副作用への対応が後手に回ることがあるため、速やかな診断と安全な治療を行えるように矢巾の岩手医大附属病院での入院対応も行っていますので、どのような症例でも安心してご紹介頂けるかと思います。今後も多くの免疫疾患患者様を救い、東北地方の免疫疾患の基盤となるよう皆様方との連携を通して努力してまいります（図４）。

図４



トピックス
Topics

Iwate Medical University

第３回地域医療連携懇談会が行われました

８月５日、ホテルメトロポリタン盛岡において、岩手医科大学附属病院第３回地域医療連携懇談会が開催され、岩手県内の医療機関から 133 施設 137 名、当院からは 80 名の医師が出席しました。この懇談会は医科・歯科医療機関と一堂に会し、これからの医療連携のあり方、意見交換の機会とすることを目的として開催されました。

本懇談会では、今年４月に行った、附属病院、内丸メディカルセンターならびに歯科医療センターの診療・運営体制に関するアンケート結果についてもご報告させていただきました。ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

小笠原学長による開会の挨拶と乾杯で懇談会の幕が開き、会場の各所で活発な意見交換が行われ、活気のある懇談会となりました。

Iwate Medical University
岩手医科大学附属病院
患者サポートセンター

地域医療連携だより（岩手医科大学附属病院）10月号
【発行日】2024年10月１日
【発　行】岩手医科大学附属病院患者サポートセンター（地域医療連携センター事務室）
〒028-3695　岩手県紫波郡矢巾町医大通2-1-1
TEL：019-613-7111（内線4152）　FAX：019-611-8071
【印　刷】河北印刷株式会社
盛岡市本町通2-8-7　TEL　019-623-4256　E-mail：office@kahoku-ipm.jp